

平成 24 年度の学生支援活動について

教育研究支援基金 WG 榊原 和久

国大化学会の皆様からの御支援で運営されています，“教育研究支援基金”を活用した学生支援活動の概要を報告させていただきます。平成24年度は、支援総額が326,680円で、下記の表に示された支援項目で学生支援を行いました。平成23年度の支出総額が308,905円ですので、30万円程度の経済的な支援を行ってきた事になります。

学生支援項目	①学会参加補助	②成績優秀者への図書カード進呈	③化学コース配属懇親会への補助	④「OB 訪問」交通費	⑤就職支援講座懇親会への補助
2012年度 (平成24年)	188,000円 (40名) * 1人当たりの補助額 最大5,000円	33,000円 (15名) 学期優秀者 (2,000円×12名) 卒業時優秀者 (3,000円×3名)	80,000円 化学コースに進学した2年生と 教員&国大化学 会役員との懇談 の場	17,750円	8,130円
2011年度 (平成23年)	192,500円	36,000円	80,000円		

役員会の席上での発言では、「もう少し年度当たりの支援総額を増やす方が良い！」という声が大いと感じられます。平成25年度以降は、そのような方向で支援活動が動いて行くものと思われま。

国大化学会の現役学生さんと毎日一緒にキャンパス生活を送っていて、国大化学会からの“教育研究支援基金”からの経済支援活動に対する、学生さん達からの声として“耳”に届いてくるのは、①の学会参加補助は、ありがたい経済支援で、大学院で研究活動を行って行く上で、今後も存続してくれれば非常に助かるものである。という事です。文部科学省からの運営費交付金が年々縮減する中、学生さんの教育研究活動経費も必然的にカットされ、学会参加の費用を学生さんの親御さんに多くを支出していただく現状は決して好ましい社会状況ではないと思います。しかし、厳しい経済状況の中で、何とかして下さる同窓会の御支援は大変ありがたいものなので、今後も、できるだけこの経済支援制度が継続さ

れることを国大化学会の会員の皆様にお願ひしく思います。

もう一つ今後の学生支援活動の指針として、皆様にお願ひしたいことは、貴重な“教育研究支援基金”のできるだけ有効な使い途を考えていただきたいという事です。超少子化の現代社会において、若い世代の同窓会活動が持続可能に発展できるようなシステムを確立し、負の遺産を残すことなく、本当に経済支援が必要なところにお金が回るようにしていただければと思います。私自身、工学府先端物質化学コースの就職担当教員として、現役OBの方々と学生の就職活動を通してお会いする機会が最近とても多くなっています。リクルーターとして現役学生のために、貴重なアドバイスや企業説明を熱心にして下さり、結果として学生達の就職先が決まることへの先導役として、社会の中で機能して下さるOBの皆様のご尽力と熱意は、何よりの学生支援であると思います。